放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 3月 6日　　事業所名:放課後等デイサービス スマイリー

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	1	3	・活動内容によってスペースが不十分である為、児童の場所やマット等をその都度変えて対応している。 ・車椅子から降りている時には車椅子は別の部屋に置くなどし、スペース確保を行なっている。	・利用者さんの活動が動きがある場合にはもう少しゆとりの設備があったほうがいい為、活動内容によって施設内の他の部屋を使用している。
	2	職員の配置数は適切である	1	3	2	・看護師2名体制により安全は活動運営となっている。	・体調不良など急な休みをとると介助の手が足りなくなる為、休みにくい事がある。職員間での連絡を密に行い、必要に応じて他部署とも連携し対応している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	1	段差等なくバリアフリーになっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	3	0	1日の終了時に振り返りを行なって、次回へ繋げれるようにしている。	主担当が作成したものを全スタッフで共有するようにしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	0		全利用児の保護者へアンケート調査を実施し、改善できる部分は早期に取り組めるように努力している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	0	・自己評価の結果をホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4	1		今後実施予定もしくは実施出来る様に努める
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	3	0		・研修がある際には全員へ希望を聞き、参加できるスタッフが個々に参加している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	0	・職員それぞれが計画案を確認し意見を出し合っている。 ・保護者にニーズや課題を確認し計画をたてている。	・計画立案後は保護者に確認して頂き、ニーズに沿った支援が行えるようにしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	3	2	・個人記録を記載し共有することで、出勤していない職員にも子どもの状況が把握できるようにしている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	2	0		・リーダーが活動内容を考え、他のスタッフに考えを元に相談し、内容の追加を行なっている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	1		・季節に応じた内容が取り組めるようにしている。 ・静の活動と動の活動を組み合わせて1日の計画をたてている。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	4	0		・土曜日のみの教室の為、課題を大きく変更することはしていないが、季節感を大切にした活動設定を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	0		・個別の作業を行なうこともあるが、その中で物の貸し借りをするなどして集団を意識しながら行なっている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	0	・業務日誌を基に内容の確認を行い、意見交換を行っている。	・事前の打合せ内容以外の物事に対して臨機応変に動けるように、活動中にも職員間で声の掛け合いを行う。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	0	・毎回その日に振り返りを行い気付きの共有を行っている。併せて児童の健康面についても確認している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	・教室終了後、記録をし支援内容の振り返りと次回への改善に繋げている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	2	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	2	4	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0	・児発管と看護師が出来るだけ参加するように調整している。どちらかが難しい場合は事前に意見を聞いてから会議に臨むようにしている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	4	1	0	・土曜のみ開所の為、学校との情報共有が難しいが、家族から学校の様子を聞いている。	・学校に行っているSTや相談員から情報共有してもらいながらおこなっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	0	0		協力医に毎朝連絡を取り、その日の利用児の状態を報告しながら連携を図っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、子ども発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3	0	児童発達支援事業所と情報共有を行なったり、見学に行かせてもらったりしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	2	0		移行支援会議等を行い、情報共有を行なっている。
	25	子ども発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	1		・積極的に研修を受講できるように努めている。
	26	放課後子どもクラブや子ども館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	1	5		・新型コロナウイルス等が落ち着いた頃の開催を検討していく。

	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	3	1	・参加出来る時に行っている。	・年2回の全体会には管理者が参加を行なっていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0		連絡帳や電話・メールなどを活用して日頃の情報を共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	0	3	3		・今後、ペアレント･トレーニング等の家族支援に関する研修の情報収集を行い、全職員が参加もしくは参加者からの情報共有ができる体制を整える。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0		・契約時に説明を行なっている。 ・変更がある場合はその都度説明を行なうようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	2	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	5		・新型コロナウイルス等が落ち着いた頃の開催を検討していく。